

学部長と理学部職員組合との交渉（2～4月）

標記の交渉は、様々な議題でおこなわれたが、紙面の都合上重要なもののみ掲載する。

①公用旅券における「助手」の英文訳について

教授会で「助手の英文訳を assistant にするのは適切でない。他の訳語を用いて、公用旅券を申請してよい。」ことになったと学部長より報告があった。

②助手の休職期間の短縮について

学部長より「学部全体で教官の空ポストがある場合は、短期間なら勤続手当支給月の休職扱いを

避けるよう努力したいので、該当者は申し出られたい」と検討結果が報告された。

③期限付定員外職員の継続雇用について

学部長は「該当者が、事実上継続雇用されるよう努力をつづけている」と報告した。理職は、文部省がこの件では大学の自主的判断を尊重すると国会で答弁していることを紹介しつつ、学部長の一層の努力を要望した。